

潰瘍性大腸炎に長く罹患した患者さんに大腸癌が発生した症例の提示そのものが本号の主題である。

しかし、本邦におけるその症例数は驚くほど少ないと言わざるを得ない。今の状況で主題として取り上げることが時機尚早という意見も編集委員会ではあった。しかし、潰瘍性大腸炎の内科的治療が主流となって何年にもなり、近い将来これらの症例から率は低いにせよ（欧米でも約3%）癌が発生するはずなのである。

このような事態になる前に、どうすれば早期診断ができ、適切な治療が可能であるかという心構えが必要なのではあるまいか。本号をお読みになって、それらの対策がおぼろげながら掴めていただけたはずである。また逆に、癌を恐れるあまり over-diagnosis や over-surgery に陥るのをいかに

防ぐかも理解されたであろう。

“潰瘍性大腸炎と癌”を語る場合、それに影のように寄り添っているのが dysplasia の問題である。これについては本号のいろいろな所で触れられているが、病理を専門とする人も含めて各人各様の考えがあるようである。しかし、この一見掴みどころのない dysplasia を十分理解せずには、潰瘍性大腸炎に伴う癌の治療に対してしっかりした考え方を持つことは難しいのではなからうか。

最後に病理の立場から一言：dysplasia の一部に intramucosal cancer を含める Morson らの考え（欧米の消化管病理の主流？）には承服できない。これは単に定義の問題にとどまらない。疾患の根本的解釈の問題なのである。本邦の病理学者がたとえ100年かかっても、彼らを説得し誤りを正したいと思っている。

胃と腸

10月号（第21巻・第10号）予告

発売予定 10月2日
定 価 1,700円

主題／消化性潰瘍のトピックス（1）—H₂ 受容体拮抗薬のもたらした諸問題

序 説	H ₂ ブロッカー療法の課題……………	山口大・1内	竹 本 忠 良
主 題	ヒスタミン H ₂ 受容体拮抗薬による胃潰瘍治癒経過の特異性……………	旭川医大・3内	原田 一道・他
	H ₂ 受容体拮抗薬抵抗性潰瘍……………	虎の門病院・消	吉田 行哉・他
	超音波内視鏡からみた H ₂ 受容体拮抗薬療法の限界……………	名大・2内	中澤 三郎・他
	内科的治療か外科的治療か……………	慈恵医大・2外	青木 照明・他
座談会	消化性潰瘍治療上の諸問題（1）H ₂ 受容体拮抗薬を中心に……………	並木 正義・川井	啓市・他
今月の症例	特殊な治癒経過をたどった胃潰瘍の1例……………	阪医大・2内	芦田 潔・他
胃と腸カンファレンス	この症例をどう考えるか……………	服部胃腸科	服部 了司・他
初心者講座	早期胃癌の見つけ方（10）……………	仙台市医療センター	望月 福治・他

（編集頁の都合で掲載論文が若干変更になることがあります。）

胃 と 腸（第21巻 第9号）

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 受付台（03）817-5600

本誌編集室直通（03）817-5714

販売部直通 （03）817-5659

1986年9月25日発行（毎月25日発行）

1部定価1,700円（配送料80円）

年ぎめ予約購読料19,080円（送料弊社負担）

FAX（03）815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印 刷 所 永和印刷（株） ☎（03）813-5001

広告取扱 医 界 弘 報 社 ☎（03）814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1986, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

（担当）長谷川・窪田・大竹